



市之倉だより

多治見市立 市之倉小学校 令和8年8月号

〒507-0814 多治見市市之倉町 10-381

TEL 0572-22-3702 ホームページ <http://school.city.tajimi.lg.jp/ichinokura/>

夏本番の暑い時期になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。いよいよ子供たちにとっては待ちに待った夏休みです。楽しい期間を過ごしてほしいですが、一方で、安全に過ごすことが何よりも大切です。ご家庭でも交通安全や水の事故防止などについて、お話をする機会をもっていただけたらと思います。また、地域の皆様も子供たちへの温かいお声掛けや見守りにご協力いただけますと幸いです。

「消極的」なことも大事

校 長

ジャン=ジャック・ルソーをご存じでしょうか。ルソーという名前くらいは聞いたことがある、という方も多いかもしれません。18世紀のフランスで活躍した思想家・哲学者です。

哲学者の名前を出して、少し校長らしくかっこよく書き始めてみましたが、実は私自身、ルソーについて詳しいわけではありません。ただ、教育に大きな影響を与えた人物ですから教育に携わる者であれば、折に触れてその名前を耳にします。



先日ある会議で、久しぶりにルソーの名前を目にしました。せっかくの機会ですので、改めて少し調べ直してみることになりました。

Jean-Jacques Rousseau
1712年—1778年

そこで目に留まったのが、「消極的教育」という言葉です。ルソーの教育観の大きな一つです。

「消極的」と聞くと、何もしない教育のように思えてしまいがちですが、そうではありません。大人が何でも教え込むのではなく、子どもが自分で考えたり、感じたり、失敗したりする機会を大切にしようという考え方です。

学校では、「早く教えたほうがよい」「失敗しないように先回りしたほうがよい」と思う場面がたくさんあります。もちろん、それが必要なこともあります。しかし、ときには我慢して少しだけ見守ってみると、子どもたちは「自分でできた!」という経験をいくつも積み重ねていくことができるように思います。

また、大人の「もう少し待ってみよう」のおかげで、友達と相談しながら解決したり、自分なりの方法を見つけたりして、「なるほど」と感心させられる姿に出会えます。大人が一步引くことで見えてくる成長があるのだと、子どもたちから教えられることも少なくありません。

もちろん、「放っておく」とことと「見守る」とことは違います。困ったときには手を差し伸べ、安全はしっかり守る。そのうえで、子どもが挑戦する時間や自分で考える余白を残しておくことが大切なのだと思います。

学校も家庭も、「教える」とことと同じくらい、「待つ」ことを大切にできたら子どもたちの「やってみよう」という気持ちは、もっと育っていくのかもしれない。

そんなことを、ルソーの「消極的教育」という言葉から、改めて考えさせられました。(私の場合、家庭では子供に対して「早く起きなさい」から「早く寝なさい」まで、まったく待つことができませんでしたが…。)

それにしても、ルソーがこの考えを提唱したのは18世紀。二百数十年たった今でも学校では、私たち教師は、相変わらず「待つ」のが苦手で、つい口を出したくなり、手を貸したくなり、結局、もちろん善意ではあるのですが、いろんなお節介を焼いてしまいます。

また少し職員みんなで「待つ」について考え、夏休み明けの子供たちと過ごす準備をしていきたいと思えます。